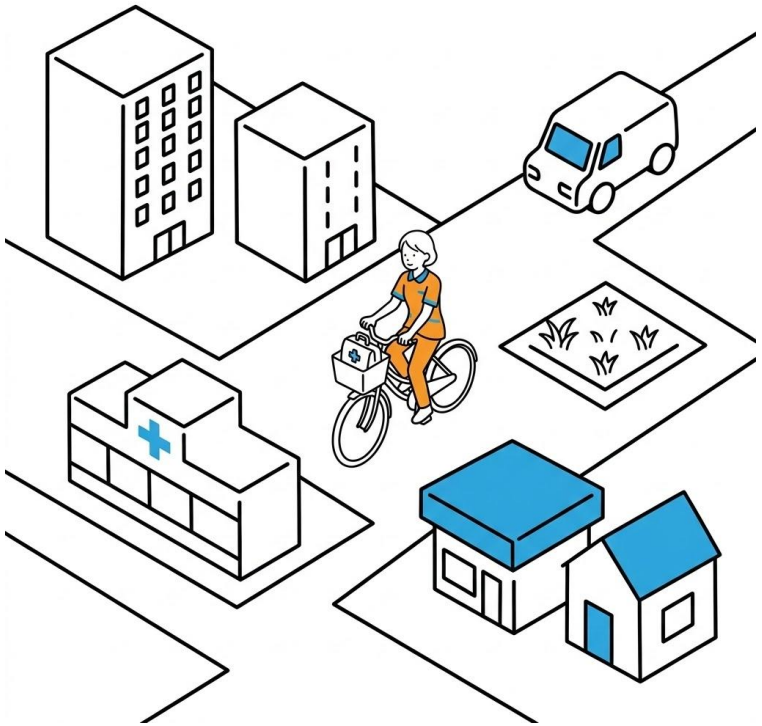
訪問看護、気になるけど怖い？

「選び方」がわかれば、安心して踏み出せる

訪問看護への転職を考えているあなたへ



ナスキャリ
NsPace Career

訪問看護って、いろいろと気になりますよね

訪問看護に興味はあるけれど、こんな不安を感じていませんか？

・利用者さんやご家族からの**ハラスメント**が心配
・**一人で訪問**するのが怖い・急変したらどう対応すればいいのか
・**オンコール**が大変そう
・**病棟のスキル**が通用するのか不安

実は、訪問看護に興味を持つ看護師さんの多くが同じ不安を抱えています。
そして大切なのは、これらの不安の多くは
「業界全体の問題」ではなく**「事業所ごとの体制の違い」**で大きく変わるということです。

この資料を読むとわかること

この資料では安心して働ける訪問看護ステーションの選び方を具体的に解説します。

この資料でわかること

- 業界の安全対策の **今の状況** がわかる
- 安心して働ける **事業所の見極め方** がわかる
- 面接・見学で使える **具体的な質問** が手に入る

「なんとなく不安」を「こう選べば大丈夫」に変えて、一歩踏み出しましょう。

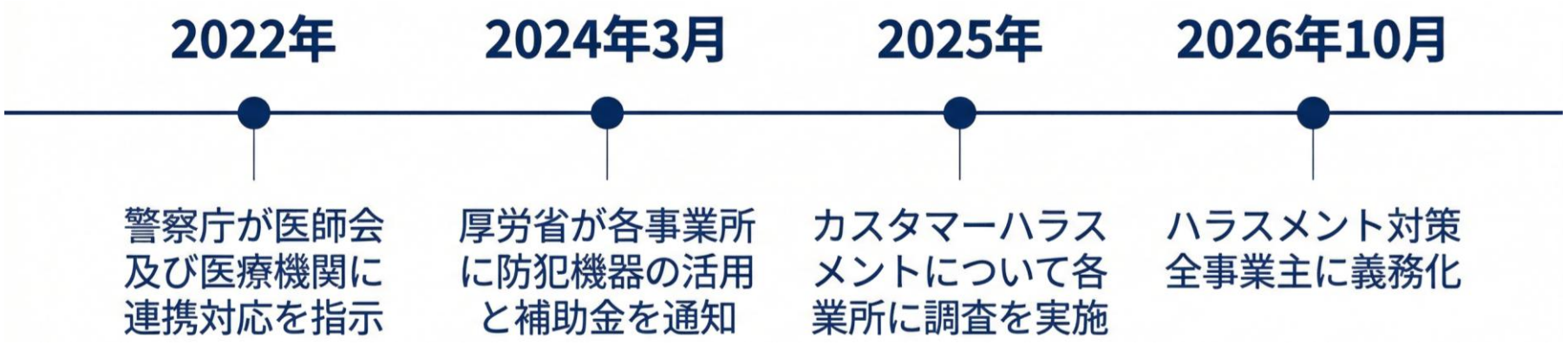
訪問看護の安全対策は、今いちばん進んでいる

実は今、訪問看護の業界全体で安全対策が大きく前進しています。

- 2026年10月から、ハラスメント対策が事業所の「義務」に
- 業界団体がガイドラインを策定し、具体的な対策基準を整備
- 警察庁・厚生労働省も、訪問従事者の安全確保に向けた通達を発出

つまり、「スタッフを守らない事業所は許されない時代」になりました。

転職を考えている今は、実は業界がいちばん安全に向かっているタイミングです。



出典：警察庁通達（令和4年6月）/ 厚生労働省通知（2024年3月）/ 改正労働施策総合推進法

訪問看護の「よくある不安」、実際はどうなっている？

一人で訪問 → 一人で抱えない仕組みがある

「一人で利用者さんのお宅に行くのが不安」。
これは訪問看護に興味を持つ方が、いちばん最初に感じる不安です。
でも今、多くの事業所では「**一人で行かなくていい**」仕組みが広がっています。

- リスクが想定される利用者さんへの**複数名訪問制度**
- 入職直後の先輩との**同行訪問**
- 複数名訪問には**医療・介護報酬の加算**がつくため、事業所にとっても導入しやすい

もちろん、人手の状況で毎回同行できるとは限りません。
ただ、「**必要なケースには複数名で対応する**」という方針を持っているかどうかは、
事業所を選ぶ大きな基準になります。

事業所選びのポイント

「**複数名訪問や同行訪問の制度はありますか？**」と聞いてみてください。

急変しても、あなた一人で判断しなくていい

「もし目の前で急変したら、一人で判断できるだろうか」。

病棟ならすぐ隣にドクターやナースがいたのに——そう思いますよね。

訪問看護は、そもそも主治医の指示書に基づいて動く仕組みです。

一人で判断を完結させる前提にはなっていません。

急変時に誰に連絡するかは、事業所によって異なります。

- 管理者が主治医との連絡を引き受けてくれるところ
- 訪問スタッフ自身が主治医に連絡するところ

大事なのは、あなたが入職する事業所の「急変時の連絡フロー」がはっきり決まっているかどうかです。

事業所選びのポイント

「急変したらまず誰に電話すればいいですか？」と聞いてみてください。

オンコール、実際どのくらい鳴る？

ナスキャリ
NsPace Career

「夜中に電話が鳴るかも」と思うと、気が休まらないですよね。

オンコールは、転職を考える看護師がいちばん気にするポイントです。

実際に夜間に緊急訪問する頻度は「利用者100名あたり月に数回程度」。

電話対応だけで済むケースも多くあります。

ただし、オンコールの負担は事業所によってまったく違います。

- 利用者さんの状態（看取りが多いか、軽症中心か）
- バックアップ体制（当番が一人か、二人体制か）
- ICTの活用（電話だけか、チャットで情報共有できるか）

だからこそ、事業所選びのときに「オンコールの実態」を確認することが大切です。

事業所選びのポイント

「当番の頻度と、バックアップ体制を教えてください」と聞いてみてください。

病棟のスキルは、訪問看護でちゃんと活きる

ナスキャリ
NsPace Career

「病棟で積んだ経験が在宅で通用するのか」
そんな不安を感じる方も多いかもしれません。
ですが実際には、在宅で求められるスキルの多くは、病棟経験がベースになっています。
バイタル測定、服薬管理、創傷ケア、点滴管理、利用者さんやご家族への説明など、
これまで病棟で培ってきた看護の基本がそのまま活かされる場面は少なくありません。
さらに、多くの訪問看護ステーションでは、
訪問看護が初めての看護師でも安心して働けるように教育体制を整えています。

例えば、
- 入職後は先輩との**同行訪問**からスタート
- 困ったときは**管理者や先輩にすぐ相談できる体制**
- **定期的なカンファレンスや勉強会**で知識を共有
- 訪問看護特有の制度や記録方法も**入職後に学べる仕組み**

こうしたサポートがあるため、訪問看護未経験からスタートする看護師も多く活躍しています。

事業所選びのポイント
「新人や訪問看護未経験者への教育体制を教えてください」と聞いてみてください。

「一人で抱え込まない」ための職場環境を選ぶ

ナスキャリ
NsPace Career

仕組みだけでなく、日々の安心感を左右するのは職場の運用体制です。
事業所によって差が大きい部分なので、
「あなたの事業所はどうしていますか？」と確認する観点として読んでください。

■同行訪問
入職直後は先輩と一緒に訪問する事業所がほとんどです。
それ以降も、経験の少ない疾患や初めての手技があるときに
「次は同行訪問させてください」と**相談できる環境**かどうかは、働きやすさに直結します。

■カンファレンス（情報共有の場）
毎朝の申し送りやケースカンファレンスを定期的に行っている事業所もあれば、
ほとんど顔を合わせる機会がない事業所もあります。
「一人で訪問する仕事」だからこそ、**チームで情報を共有する場**があるかどうかは重要です。

■定期面談・メンタルフォロー
不安や悩みを定期的に相談できる仕組みがあるか。
オンコール後の振り返りや、困難事例のフォローがあるか。
制度よりも、**「困ったときに声を上げやすい空気」**があるかどうかが、長く続けられるかを左右します。

「嫌なことは嫌と言える」ルールがある事業所を選ぶ

ナスキャリ
NsPace Career

利用者さんやご家族とのトラブル、「我慢するしかないのかな」と思っていませんか？
実は、ハラスメント対策の出発点は利用開始時にルールを明文化することなんです。
訪問看護では、サービス開始前に利用者さんやご家族と書面を取り交わします。
その中に、「**看護師への暴言・暴力があった場合、サービスを中止することがある**」と
はっきり書いている事業所が増えています。
「ハラスメントがあれば改善を求め、改善が見られない場合はサービス提供を中止する」
―― こうした文言が最初から書面にあるだけで、「嫌なことは嫌と言っていい」根拠になります。
ルールを書面に残している職場は、スタッフを守ることを本気で考えている証拠です。

事業所選びのポイント

「ハラスメント対策の方針は書面にありますか？」と聞いてみてください。

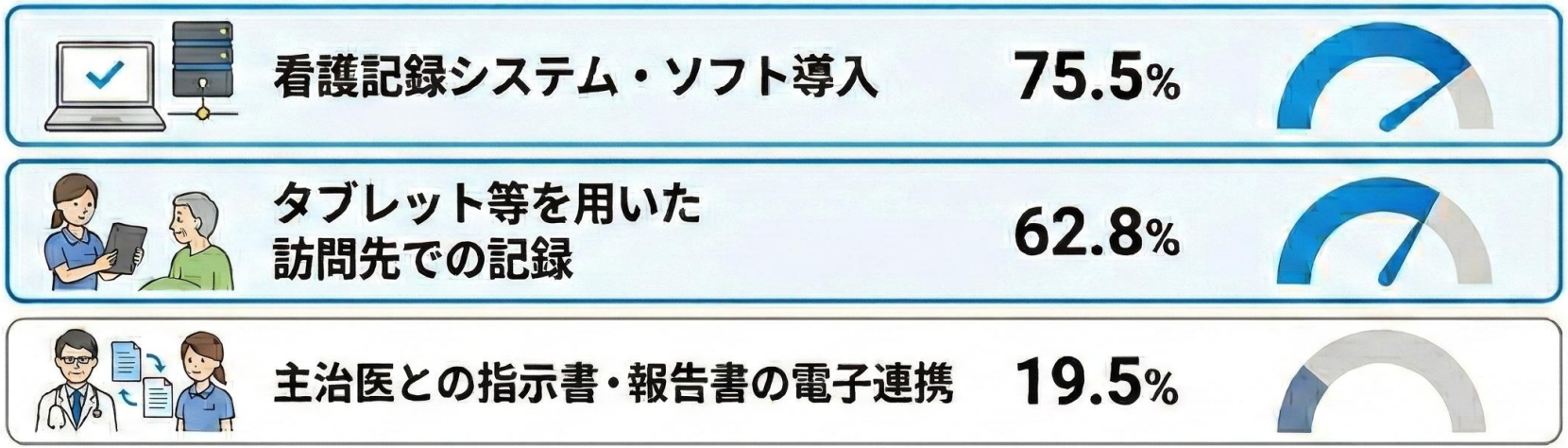
一人でも「つながっている安心」がある

訪問先にいても、事業所とつながれるツールが広がっています。

調査によると、多くの事業所でITツールが導入されており、

自身の正確な応対記録を残せる、困ったときには誰かに相談できる環境が整ってきています。

看護師自身が、「一人で判断しなきゃ」という場面は、年々減っています。



事業所選びのポイント

「電子カルテはありますか？訪問先で情報を確認できますか？」と聞いてみてください。

出典：日本看護協会 訪問看護実態調査（表 113_ICT 導入による業務効率化の実施状況）

面接・見学で聞いてほしい5つのこと

ナスキャリ
NsPace Career

全部にチェックが入る事業所は多くありません。
大切なのは、「うちはここを大事にしている」と言えるものがあるかどうか。
完璧じゃなくても、よくしていこうという姿勢がある職場を選んでください。

- □ 1 ハラスメント対策
「複数名訪問や同行の制度はありますか？」

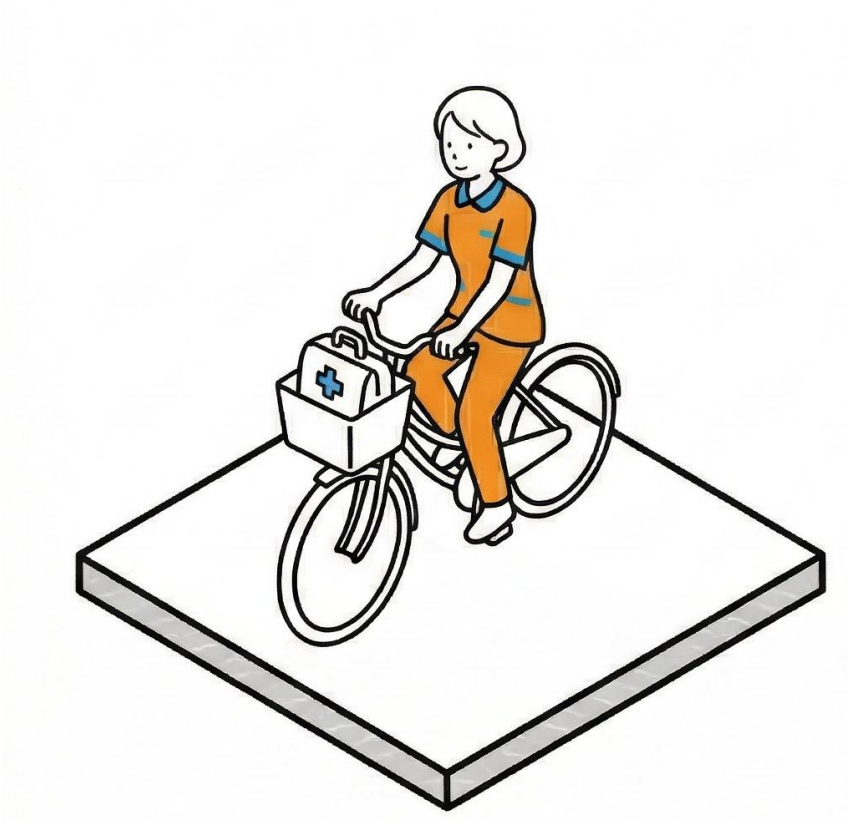
- □ 2 オンコール体制
「当番の頻度と、バックアップ体制を教えてください」

- □ 3 教育体制
「同行訪問はどのくらいの期間ですか？困ったときの相談先は？」

- □ 4 ICT環境
「電子カルテはありますか？訪問先で情報を確認できますか？」

- □ 5 定期面談
「カンファレンスや個別面談の頻度は？」

「訪問看護がいい」と思える理由



訪問看護を選ぶ人が、増え続けている

訪問看護ステーションの数は、この15年で大きく増えました。

2010年:約5,200か所 → 2025年:約18,700か所

これは「需要が増えている」だけではありません。

訪問看護という働き方を、自ら選ぶ看護師が増えているということでもあります。

病院では「大勢の看護師の中の一人」だった。
訪問看護では一対一だから、自分の看護がどう届いたかが見える。
それが何よりのやりがいになっている。

—— 訪問看護師の声

出典:一般社団法人全国訪問看護事業協会「訪問看護ステーション数調査」

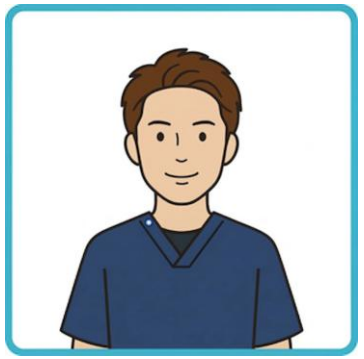
訪問看護エピソード

ナスキャリ
NsPace Career

ナスキャリを通じて訪問看護に転職した方に、「決め手」と「今の実感」を聞きました。

Aさん
（30代・急性期病棟から転職／経験1年）

病棟で6年働いて、「もっと一人ひとりに向き合いたい」と思うようになりました。
でも訪問看護は未経験だし、一人で判断する場面が怖くて踏み出せなかった。
ナスキャリの担当者に相談したら、同行訪問が3か月あって、
急変時は管理者が主治医への連絡を引き受けてくれる事業所を紹介してもらえました。
今は「一人で抱えなくていい」と実感しています。困ったらすぐチャットで相談できるし、
週1のカンファレンスで他のスタッフの事例も聞ける。
病棟のときより、チームで動いている感覚があります。



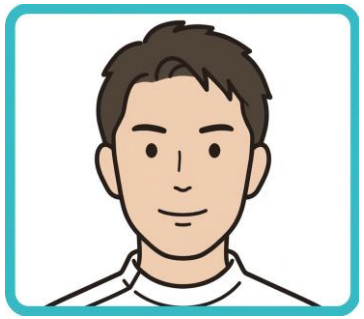
Bさん
（40代・クリニックから転職／経験2年）

子どもが小学生になって、オンコールのある訪問看護は無理だと思っていました。
でもナスキャリで「オンコール対応はなし」という事業所を見つけて、
実際に見学で確認してから入職を決めました。
今は夜勤もなくなり、オンコールもないので、子供との時間が多くとれるようになりました。

訪問看護エピソード

ナスキャリ
NsPace Career

ナスキャリを通じて訪問看護に転職した方に、「決め手」と「今の実感」を聞きました。



Cさん
（20代・総合病院から転職／経験半年）

病院で働いていた頃から、退院後の生活を心配する患者さんをよく見ていました。
「家に帰ってから大丈夫かな」と思うことも多かったんです。
ちょうどその頃、ニュースや医療の話題でも在宅医療の必要性がよく取り上げられるようになっていて、
「これからは病院だけじゃなくて、地域で支える医療が大事になっていくんだな」と感じるようになりました。
実際に調べてみると、国としても在宅医療を推進していて、訪問看護の役割はこれからますます大きくなると言われています。
今訪問看護で働いてみて、本当にその通りだと実感しています。
利用者さんが自宅で安心して生活できるよう支える仕事は、これからの社会に必要とされている看護だと感じています。

あなたに合う事業所を、ナスキャリで見つけよう

ナスキャリ
NsPace Career

我々ナスキャリは、訪問看護に特化した求人サイトです。
この資料で紹介した「事業所選びのポイント」を踏まえて、
あなたに合った職場を一緒に探しませんか？

▲求人検索はこちらから

※ LINEでも気軽にご相談いただけます

発行：NsPace Career（在宅医療支援機構株式会社）